

特定非営利活動法人 ナイマゼ 定款

第1章 総則

(名称)

第1条 この法人は、特定非営利活動法人ナイマゼという。

(事務所)

第2条 この法人は、主たる事務所を滋賀県大津市に置く。

(目的)

第3条 この法人は、地域への想いを持って活動する組織や個人に対して、協働のまちづくり活動に関する支援事業を行い、その活動によって創造的で心躍る社会、地域の持続可能な未来の実現に寄与することを目的とする。

(特定非営利活動の種類)

第4条 この法人は、その目的を達成するため、次に掲げる種類の特定非営利活動を行う。

- (1) まちづくりの推進を図る活動
- (2) 学術、文化、芸術またはスポーツの振興を図る活動
- (3) 社会教育の推進を図る活動
- (4) 経済活動の活性化を図る活動
- (5) 前各号に掲げる活動を行う団体の運営または活動に関する連絡、助言または援助の活動

(事業)

第5条 この法人は、第3条に規定する目的を達成するため、特定非営利活動に係る事業として、次の事業を行う。

- (1) まちづくりに関する調査研究事業
- (2) 人材育成・教育研修事業
- (3) 地域活性化に関するコンサルティング事業
- (4) その他目的を達成するために必要な事業

第2章 会員

(種別)

第6条 この法人の会員は、次のとおりとし、正会員をもって特定非営利活動促進法（以下「法」

という。)上の社員とする。

- (1) 正会員 この法人の目的に賛同し、法人の活動を推進する個人および団体
- (2) 賛助会員 この法人の目的に賛同し、法人の活動を支援する個人および団体

(入会)

第7条 会員の入会については、特に条件を定めない。

- 2 会員として入会しようとするものは、代表理事が別に定める入会申込書により、代表理事に申し込むものとする。
- 3 代表理事は、前項の申し込みがあったときは、正当な理由がない限り、入会を認めなければならない。
- 4 代表理事は、第2項のものを入会を認めないときは、速やかに、理由を付した書面または電磁的方法をもって本人にその旨を通知しなければならない。

(会費)

第8条 会員は、理事会において別に定める会費を納入しなければならない。

(会員の資格の喪失)

第9条 会員が次の各号の一に該当するに至ったときは、その資格を喪失する。

- (1) 退会届の提出をしたとき。
- (2) 本人が死亡し、もしくは失そう宣告を受け、または会員である団体が消滅したとき。
- (3) 継続して1年以上会費を滞納したとき。
- (4) 除名されたとき。

(退会)

第10条 会員は、代表理事が別に定める退会届を代表理事に提出して、任意に退会することができる。

(除名)

第11条 会員が次の各号の一に該当する場合は、総会の議決により、これを除名することができる。この場合、その会員に対し、議決の前に弁明の機会を与えなければならない。

- (1) この定款に違反したとき。
- (2) この法人の名誉をき損し、または目的に反する行為をしたとき。

(拠出金品の不返還)

第12条 すでに納入した会費その他の拠出金品は、返還しない。

第3章 役員

(種別および定数)

第13条 この法人に次の役員を置く。

- (1) 理事 3人以上12人以内
 - (2) 監事 1人以上2人以内
- 2 理事のうち、1人を代表理事とする。

(選任等)

第14条 理事は理事会において選任し、監事は総会において選任する。

- 2 代表理事は、理事の互選とする。
- 3 役員のうちには、それぞれの役員について、その配偶者もしくは三親等以内の親族が1人を超えて含まれ、または当該役員並びにその配偶者および三親等以内の親族が役員の総数の3分の1を超えて含まれることになってはならない。
- 4 監事は、理事またはこの法人の職員を兼ねることができない。

(職務)

第15条 代表理事は、この法人を代表し、その業務を総理する。

- 2 代表理事以外の理事は、法人の業務について、この法人を代表しない。
- 3 理事は、理事会を構成し、この定款の定めおよび総会または理事会の議決に基づき、この法人の業務を執行する。
- 4 監事は、次に掲げる職務を行う。
 - (1) 理事の業務執行の状況を監査すること。
 - (2) この法人の財産の状況を監査すること。
 - (3) 前2号の規定による監査の結果、この法人の業務または財産に関し不正の行為または法令もしくは定款に違反する重大な事実があることを発見した場合には、これを総会または所轄庁に報告すること。
 - (4) 前号の報告をするため必要がある場合には、総会を招集すること。
 - (5) 理事の業務執行の状況またはこの法人の財産の状況について、理事に意見を述べ、もしくは理事会の招集を請求すること。

(任期等)

第16条 役員任期は、2年とする。ただし再任を妨げない。

- 2 補欠のため、または増員により就任した役員任期は、それぞれの前任者または現任者の任期の残存期間とする。
- 3 役員は、辞任または任期満了後においても、後任者が就任するまでは、その職務を行わなければならない。

(欠員補充)

第17条 理事または監事のうち、その定数の3分の1を超える者が欠けたときは、遅滞なくこれを補充しなければならない。

(解任)

第18条 役員が次の各号の一に該当する場合には、理事は理事会の議決により、監事は総会の議決により、これを解任することができる。

- (1) 心身の故障のため、職務の遂行に堪えないと認められるとき。
 - (2) 職務上の義務違反その他役員としてふさわしくない行為があったとき。
- 2 前項の規定により役員を解任しようとする場合は、その役員に対し、議決の前に弁明の機会を与えなければならない。

(報酬等)

第19条 役員は、その総数の3分の1以下の範囲内で報酬を受けることができる。

- 2 役員には、その職務を執行するために要した費用を弁償することができる。
- 3 前2項に関し必要な事項は、理事会の議決を経て、代表理事が別に定める。

第4章 会議

(種別)

第20条 この法人の会議は、総会および理事会の2種とする。

- 2 総会は、通常総会および臨時総会とする。

(総会の構成)

第21条 総会は、正会員をもって構成する。

(総会の権能)

第22条 総会は、以下の事項について議決する。

- (1) 定款の変更
- (2) 解散および合併
- (3) 会員の除名
- (4) 事業報告および活動決算
- (5) 監事の選任および解任、職務および報酬
- (6) 解散における残余財産の帰属
- (7) その他運営に関する重要事項

(総会の開催)

第23条 通常総会は、毎事業年度1回開催する。

- 2 臨時総会は、次に掲げる事由により開催する。
 - (1) 理事会が必要と認め、招集の請求をしたとき。
 - (2) 正会員総数の5分の1以上から会議の目的を記載した書面により招集の請求があつ

たとき。

(3) 監事が第 15 条第 4 項第 4 号に基づき招集するとき。

(総会の招集)

第24条 総会は、前条第 2 項第 3 号の場合を除いて、代表理事が招集する。

- 2 代表理事は、前条第 2 項第 1 号および第 2 号の規定による請求があったときは、その日から 30 日以内に臨時総会を招集しなければならない。
- 3 総会を招集する場合には、会議の日時、場所、目的および審議事項を記載した書面または電磁的方法により、開催の日の少なくとも 5 日前までに通知しなければならない。

(総会の議長)

第25条 総会の議長は、その総会に出席した正会員の中から選出する。

(総会の定足数)

第26条 総会は、正会員総数の 2 分の 1 以上の出席がなければ開会することができない。

(総会の議決)

第27条 総会における議決事項は、第 24 条第 3 項の規定によってあらかじめ通知した事項とする。

- 2 総会の議事は、この定款に規定するもののほか、出席者した正会員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。
- 3 理事または社員が総会の目的である事項について提案した場合において、社員の全員が書面または電磁的記録により同意の意思表示をしたときは、当該提案を可決する旨の社員総会の決議があったものとみなす。

(総会の表決権等)

第28条 各正会員の表決権は平等なるものとする。

- 2 やむを得ない理由により総会に出席できない正会員は、あらかじめ通知された事項について、書面もしくは電磁的方法をもって表決し、または他の正会員を代理人として表決を委任することができ、この場合において、第 26 条、第 27 条第 2 項、第 29 条第 1 項第 2 号および第 49 条の規定の適用については出席したものとみなす。
- 3 総会の議決について、特別の利害関係を有する正会員は、その議事の議決に加わることができない。

(総会の議事録)

第29条 総会の議事については、次の事項を記載した議事録を作成しなければならない。

- (1) 日時および場所
- (2) 正会員総数および出席者数（書面もしくは電磁的方法による表決者、または表決委任者がある場合にあっては、その数を付記すること。）

- (3) 審議事項
- (4) 議事の経過の概要および議決の結果
- (5) 議事録署名人の選任に関する事項
- 2 議事録には、議長およびその総会において選任された議事録署名人 2 人が署名または記名、押印しなければならない。
- 3 前 2 項の規定に関わらず、正会員全員が書面または電子的記録により同意の意思表示をしたことにより、総会の決議があったとみなされた場合においては、次の事項を記載した議事録を作成しなければならない。
 - (1) 総会の決議があったものとみなされた事項の内容
 - (2) 前号の事項の提案をした者の氏名または名称
 - (3) 総会の決議があったものとみなされた日
 - (4) 議事録の作成に係る職務を行った者の氏名

(理事会の構成)

第30条 理事会は、理事をもって構成する。

(理事会の権能)

第31条 理事会は、この定款で定める事項のほか、次の事項を議決する。

- (1) 総会に付議すべき事項
- (2) 総会の議決した事項の執行に関する事項
- (3) その他総会の議決を要しない業務の執行に関する事項
- (4) 事業計画および活動予算ならびにその変更
- (5) 理事の選任または解任、職務および報酬
- (6) 会費の額
- (7) 借入金（その事業年度内の収益をもって償還する短期借入金を除く。第 48 条において同じ。）その他新たな義務の負担および権利の放棄

(理事会の開催)

第32条 理事会は、次に掲げる場合に開催する。

- (1) 代表理事が必要と認めたとき。
- (2) 理事総数の 3 分の 1 以上から会議の目的である事項を記載した書面をもって、招集の請求があったとき。
- (3) 第 15 条第 4 項第 5 号の規定により、監事から招集の請求があったとき。

(理事会の招集)

第33条 理事会は、代表理事が招集する。

- 2 代表理事は、第 32 条第 2 号および第 3 号の規定による請求があったときは、その日から 30 日以内に理事会を招集しなければならない。

- 3 理事会を招集するときは、会議の日時、場所、目的および審議事項を記載した書面または電磁的方法により、開催の日の少なくとも5日前までに通知しなければならない。

(理事会の議長)

第34条 理事会の議長は、代表理事がこれに当たる。

(理事会の議決)

第35条 理事会における議決事項は、第33条第3項の規定によってあらかじめ通知した事項とする。

- 2 理事会の議事は、理事総数の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(理事会の表決権等)

第36条 各理事の表決権は、平等なるものとする。

- 2 やむを得ない理由のため理事会に出席できない理事は、あらかじめ通知された事項について書面をもって表決することができ、この場合において第35条第2項および第37条第1項第2号の適用については、理事会に出席したものとみなす。
- 3 理事会の議決について、特別の利害関係を有する理事は、その議事の議決に加わることができない。

(理事会の議事録)

第37条 理事会の議事については、次の事項を記載した議事録を作成しなければならない。

- (1) 日時および場所
 - (2) 理事総数、出席者数および出席者氏名（書面表決者にあつては、その旨を付記すること。）
 - (3) 審議事項
 - (4) 議事の経過の概要および議決の結果
 - (5) 議事録署名人の選任に関する事項
- 2 議事録には、議長およびその会議において選任された議事録署名人2人が署名または記名、押印しなければならない。

第5章 資産

(資産の構成)

第38条 この法人の資産は、次の各号に掲げるものをもって構成する。

- (1) 設立時の財産目録に記載された資産
- (2) 会費
- (3) 寄附金品

- (4) 資産から生じる収益
- (5) 事業に伴う収益
- (6) その他の収益

(資産の区分)

第39条 この法人の資産は、特定非営利活動に係る事業に関する資産の1種とする。

(資産の管理)

第40条 この法人の資産は、代表理事が管理し、その方法は、理事会の議決を経て、代表理事が別に定める。

第6章 会計

(会計の原則)

第41条 この法人の会計は、法第27条各号に掲げる原則に従って行う。

(会計の区分)

第42条 この法人の会計は、特定非営利活動に係る事業に関する会計の1種とする。

(事業計画および予算)

第43条 この法人の事業計画およびこれに伴う活動予算は、毎事業年度ごとに代表理事が作成し、理事会の議決を経なければならない。

(暫定予算)

第44条 前条の規定にかかわらず、やむを得ない理由により予算が成立しないときは、代表理事は、理事会の議決を経て、予算成立の日まで前事業年度の予算に準じ収益費用を講じることができる。

2 前項の収益費用は、新たに成立した予算の収益費用とみなす。

(予算の追加および更正)

第45条 予算成立後にやむを得ない事由が生じたときは、理事会の議決を経て、既定予算の追加または更正をすることができる。

(事業報告および決算)

第46条 この法人の事業報告書、財産目録、貸借対照表および活動計算書等の決算に関する書類は、毎事業年度終了後、速やかに、代表理事が作成し、監事の監査を受け、総会の議決を経なければならない。

2 決算上剰余金を生じたときは、次事業年度に繰り越すものとする。

(事業年度)

第47条 この法人の事業年度は、毎年4月1日に始まり翌年3月31日に終わる。

(臨機の措置)

第48条 予算をもって定めるもののほか、借入金の借入れその他新たな義務の負担をし、または権利の放棄をしようとするときは、理事会の議決を経なければならない。

第7章 定款の変更、解散および合併

(定款の変更)

第49条 この法人が定款を変更しようとするときは、総会に出席した正会員の4分の3以上の多数による議決を経、かつ、法第25条第3項に規定する事項を変更する場合、所轄庁の認証を得なければならない。

- (1) 目的
 - (2) 名称
 - (3) その行う特定非営利活動の種類および当該特定非営利活動に係る事業の種類
 - (4) 主たる事務所およびその他の事務所の所在地（所轄庁変更を伴うものに限る）
 - (5) 社員の資格の得喪に関する事項
 - (6) 役員に関する事項（役員の定数に関する事項を除く）
 - (7) 会議に関する事項
 - (8) その他の事業を行う場合における、その種類その他当該その他の事業に関する事項
 - (9) 解散に関する事項（残余財産の帰属すべき事項に限る）
 - (10) 定款の変更に関する事項
- 2 この法人の定款を変更（前項の規定により所轄庁の認証をえなければならない事項を除く）したときは、所轄庁に届け出なければならない。

(解散)

第50条 この法人は、次に掲げる事由により解散する。

- (1) 総会の決議
 - (2) 目的とする特定非営利活動に係る事業の成功の不能
 - (3) 正会員の欠亡
 - (4) 合併
 - (5) 破産手続き開始の決定
 - (6) 所轄庁による設立の認証の取消し
- 2 前項第1号の事由によりこの法人が解散するときは、正会員総数の4分の3以上の承諾を経なければならない。
- 3 第1項第2号の事由により解散するときは、所轄庁の認定を得なければならない。

(残余財産の帰属)

第51条 この法人が解散（合併または破産手続き開始の決定による解散を除く。）したときに残存する財産は、法第 11 条第 3 項に掲げる者のうち、総会において議決した者に譲渡するものとする。

(合併)

第52条 この法人が合併しようとするときは、総会において正会員総数の 4 分の 3 以上の議決を経、かつ、所轄庁の認証を得なければならない。

第 8 章 公告の方法

(公告の方法)

第53条 この法人の公告は、この法人の掲示場に掲示するとともに、官報に掲載して行う。ただし、法第 28 条の 2 第 1 項に規定する貸借対照表の公告については、滋賀県協働ポータルサイト（NPO 法人の貸借対照表の公告）に掲載して行う。

第 9 章 雑則

(細則)

第54条 この定款の施行について必要な細則は、理事会の議決を経て、代表理事がこれを定める。

附則

1 この定款は、この法人の成立の日から施行する。

2 この法人の設立当初の役員は、次のとおりとする。

代表理事 田口真太郎

理 事 秋村洋

理 事 加藤賢治

理 事 小玉恵

理 事 佐藤典司

理 事 田口真弓

監 事 杉中貴

3 この法人の設立当初の役員の任期は、第 16 条第 1 項の規定にかかわらず、この法人の成立の日から令和 6 年 6 月 30 日までとする。

4 この法人の設立当初の事業年度は、第 43 条の規定にかかわらず、この法人の設立の日から令和 5 年 3 月 31 日までとする。

5 この法人の設立当初の事業計画および活動予算は、第 44 条の規定にかかわらず、設立総会の

定めるものとする。

6 この法人の設立当初の会費は、第8条の規定にかかわらず、次に掲げる額とする。

(1) 正会員 年会費 3,000 円

(2) 賛助会員（個人） 年会費一口 3,000 円（一口以上）

賛助会費（団体） 年会費一口 30,000 円（一口以上）

設立の時の財産目録
2023年3月23日現在

特定非営利活動法人 ナイマゼ
(単位：円)

科目	金額		
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	0		
未収金	0		
流動資産合計	0		
2. 固定資産			
(1) 有形固定資産	0		
(2) 無形固定資産	0		
(3) 投資その他の資産	0		
固定資産合計		0	
資産合計			0
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	0		
預り金	0		
流動負債合計			
2. 固定負債			
長期借入金	0		
固定負債合計	0	0	
負債合計			0
正味財産			0

令和4年度事業計画書

法人成立の日から令和5年3月31日まで

特定非営利活動法人 ナイマゼ

1 事業実施の方針

法人設立初年度は、特に東近江エリアにおける地域課題解決に取り組む市民団体の活動支援に取り組み、組織の活動基盤を整えていきたい。

2 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

定款の 事業名	事業内容	実施 予定 日時	実施 予定 場所	従事者 の予定 人数	受益対象者 の範囲及び 予定人数	支出見 込額 (千円)
まちづくりに関 する調査研究事 業	行政・市民・民間などの 垣根を超えた新しい協働 創出に向けての調査研究	—	—	—	—	—
人材育成・教育 研修事業	滋賀県内の高校生・大学 生による地域活動の支援	—	—	—	—	—
地域活性化に関 するコンサルテ ィング事業	地域課題解決に取り組む 市民団体の活動支援	通年	滋賀県 内	3名	地域住民10 名	560
その他目的を達 成するために必 要な事業	当該年度は実施予定なし	—	—	—	—	—

令和4年度 活動予算書
 法人成立の日から令和5年3月31日まで

特定非営利活動法人 ナイマゼ
 (単位：円)

科目	金額	
I 経常収益		
1. 受取会費		
正会員受取会費	30,000	
賛助会員受取会費	0	30,000
2. 受取寄附金		
受取寄附金	0	0
3. 事業収益		
まちづくりに関する調査研究事業	0	
人材育成・教育研修事業	0	
地域活性化に関するコンサルティ	1,200,000	
その他目的を達成するために必要な事業	0	1,200,000
経常収益計		1,230,000
II 経常費用		
1. 事業費		
(1) 人件費		
役員報酬	50,000	
給料手当	50,000	
人件費計	100,000	
(2) その他経費		
業務委託費	400,000	
消耗品費	50,000	
旅費交通費	10,000	
その他経費計	460,000	
事業費計		560,000
2. 管理費		
(1) 人件費		
人件費計	0	
(2) その他経費		
通信運搬費	50,000	
その他経費計	50,000	
管理費計		50,000
経常費用計		610,000
当期経常増減額		620,000
III 経常外収益	0	
経常外収益計	0	0
IV 経常外費用		
経常外費用計		
当期正味財産増減額		620,000
設立時正味財産額		0
次期繰越正味財産額		620,000

令和5年度事業計画書

令和5年4月1日から令和6年3月31日まで

特定非営利活動法人 ナイマゼ

1 事業実施の方針

令和5年度は、これまで取り組んできたまちづくり事業を通じて培ってきたさまざまなネットワークを活用して、近江八幡市を中心に行ってきた各種事業の実施エリアを県域へ少しずつ広げて行きたいと考えている。

特に、官民連携のまちづくりへの積極的な働きかけとして、自治会運営や子育て支援、高校生や大学生の地域活動などの分野における対話を促すワークショップのファシリテーションを実践し、滋賀県域での実績づくりとネットワークづくりを重点的に取り組んでいきたい。

2 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

定款の 事業名	事業内容	実施 予定 日時	実施 予定 場所	従事者 の予定 人数	受益対象者 の範囲及び 予定人数	支出見 込額 (千円)
まちづくりに関 する調査研究事 業	行政・市民・民間などの 垣根を超えた新しい協働 創出に向けての調査研究	通年	滋賀県 内	2名	滋賀県内 80名	440
人材育成・教育 研修事業	滋賀県内の高校生・大学 生による地域活動の支援	通年	滋賀県 内	10名	滋賀県全域 40名	220
地域活性化に関 するコンサルテ ィング事業	地域課題解決に取り組む 市民団体の活動支援	通年	滋賀県 内	3名	滋賀県全域 150名	1,540
その他目的を達 成するために必 要な事業	当該年度は実施予定なし	—	—	—	—	—

令和5年度 活動予算書
令和5年4月1日から令和6年3月31日まで

特定非営利活動法人 ナイマゼ
(単位：円)

科目	金額		
I 経常収益			
1. 受取会費			
正会員受取会費	30,000		
賛助会員受取会費	0	30,000	
2. 受取寄附金			
受取寄附金	0	0	
3. 事業収益			
まちづくりに関する調査研究事業	500,000		
人材育成・教育研修事業	250,000		
地域活性化に関するコンサルティ	1,750,000		
その他目的を達成するために必要な事業	0	2,500,000	
経常収益計			2,530,000
II 経常費用			
1. 事業費			
(1) 人件費			
役員報酬	600,000		
給料手当	600,000		
人件費計	1,200,000		
(2) その他経費			
業務委託費	400,000		
広告宣伝費	200,000		
消耗品費	100,000		
通信運搬費	100,000		
会議費	50,000		
旅費交通費	150,000		
その他経費計	1,000,000		
事業費計		2,200,000	
2. 管理費			
(1) 人件費			
人件費計	0		
(2) その他経費			
業務委託費	200,000		
通信運搬費	50,000		
その他経費計	250,000		
管理費計		250,000	
経常費用計			2,450,000
当期経常増減額			80,000
III 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
IV 経常外費用			
経常外費用計			
当期正味財産増減額			80,000
前期繰越正味財産額			620,000
次期繰越正味財産額			700,000